

1905年、愛知淑徳女学校が誕生。70年目の1975(昭和50)年に学園は念願の4年制大学を開学します。当初、文学部は国文科と英文科のみでしたが、10年後の1985(昭和60年)に図書館情報学科を新設。国内では3校しかない学科、中部地区初、女子大初と大きな話題になりました。卒業生に学園の思い出を語っていただくシリーズの第17回は、文学部図書館情報学科第1回卒業生の長谷川佳与子さんの登場です。

「マイコン」と呼んでいた時代、 フロッピーディスク 8インチのFDを持ち歩いていた。

中学校から愛知淑徳です。近所に進学校の滝中学校があるので、母から「あなたには女子校の方が合っているんじゃない」と勧められて受験しました。高2の時、愛知淑徳大学に図書館情報学科が新設されると聞き、もともと理系に進みたかったのと、将来はコンピュータを使った仕事をしたという希望があったので、進学することにしました。

図書館情報学科は、慶應義塾大学文学部の図書館・情報学科を退官された津田良成先生を中心として慶應系の先生が多く、慶應と同じ内容の講義を淑徳でやってくださいました。コンピュータを活用して社会で活躍できる女性「テクノレディ」を育成するという学科で、当時としては新しく思ったと思います。



愛知淑徳大学文学部図書館情報学科
第1回卒業生(昭和63年度卒業)
長谷川佳与子さん(旧姓:野尻)

昭和41年生まれ。現在42歳。
卒業後、証券会社へ就職するが1か月で退社し、「内藤記念くすり博物館」(製薬会社エーザイの企業博物館)へ学芸員・司書として転職。出版物編集、調査研究、資料展示、見学案内、取材対応、展示施設メンテナンス、夏休み親子教室など多忙な日々を送る。28歳で結婚。仕事では旧姓を使用。

中学校入学式の日。
淑徳坂の桜の下で。
後ろは旧校舍



担任の斉藤孝先生はコンピュータが専門。大学卒業式の日、教室で卒業証書を受け取る



私たちは1期生ということもあり、先生方はとても熱心でした。ゼミ合宿で東京の岡澤和世先生のご自宅に伺ったり、今でも東京で岡澤先生や津田先生にお会いすることがあります。

パソコンは今ほど普及しておらず、「マイコン(マイクロコンピュータ)」と呼んでいました。パソコン専用の教室、情報科学教育センターには1クラス分、50台の東芝のパソコンが並んでいました。その頃は大容量のデータをサーバーに保管できなかったので、学生は自分で作成したプログラムや文書などを保存するために、フロッピーディスクを入れるための、フロッピーディスクを持って蛇腹式のケースを買わされて持っていました。当時、ディスクは8インチ、



「くすり博物館」に入って2年目の1990年5月、図書館情報学科の博物館実習の授業にて。後輩に博物館の説明をする長谷川さん(右端)

シングルレコードの大きさだったんですよ(笑)。ウィンドウズの前のMS-DOSの時代、プログラミングもベシック、C言語、コボルなどの頃です。結構オタクで、大須のアメ横で中古のパソコンを買ったこともあります。

図書館情報学科は実習が多く、岡澤先生のレファレンスの授業では、参考図書を探して専門図書館や企業図書館を回りました。鶴舞図書館や栄にあった古い愛知県図書館へ調べものに行く課題もありました。

コンピュータの授業は大変でしたが、自分が指令したことがその通り動くのが面白かったですね。合理的に物事が処理できるので、使いこなせるのが便利だと思っていました。

中高はバトン部とダンス部に籍を置いていましたが、大学ではもっぱらアルバイトに明け暮れていました。バブルの頃で、いろいろなバイトを経験しました。放送局のラジオ番組でリクエストの電話受付をした時、コンピュータが使えるということで、選挙のニュース速報に駆り出されて入

力作業を行ったこともありです。

大学で取得した図書館司書と博物館学芸員の資格はもちろん、資料の整理、データベースの構築方法など、大学で学んだことがとても役に立っています。でも実際に博物館で仕事をしてみると、歴史や古典、生物や植物など、もっと学生時代に勉強しておけば良かったと思うことがたくさんありますね。(談)

卒論は企業博物館について調べました。子供の頃から父に連れられて美術館や博物館を回ることが好きだったこともあり、興味がありました。その中で何度か「内藤記念くすり博物館」に通いました。

くすり博物館は、エーザイの創業者が、資料が散逸すると日本の医療の歴史がひもとけなくなるのを懸念して、今ほど企業の社会的貢献が声高に言われていなかった昭和46年、時代に先駆けて作った企業博物館です。調査に通ううち、是非こちらで働きたいと思うようになり、職員の方にアピールしていたところ、欠員が出て運よく採用されました。

博物館は職員数が少ないこともあって、資料の調査や学会での発表など本来の学芸員の仕事はもちろんです。来館者への説明から電球の取り替えまで何でもやります。収蔵品には「解体新書」がありますが、見学された方が「教科書に載っていた実物なんですか」と感激してくださった時などは嬉しいですね。

大学で取得した図書館司書と博物館学芸員の資格はもちろん、資料の整理、データベースの構築方法など、大学で学んだことがとても役に立っています。でも実際に博物館で仕事をしてみると、歴史や古典、生物や植物など、もっと学生時代に勉強しておけば良かったと思うことがたくさんありますね。(談)